



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校

令和6年5月27日

第3号

発行責任者 天野 圭

キラキラとひとみが輝く二小の子ども

【読み聞かせ（ハーモニー様）よろしくお願いいたします】

今年度も、ボランティアで読み聞かせをしてくださいます「ハーモニー」様より「第1回低学年読み聞かせ」が行われました。

プロに負けない読み聞かせに、低学年の子どもたちは、凜とした態度で、目を輝かせ、真剣にお話を聞いていました。

何歳になっても読み聞かせを聞くのはいいですね。

その理由は

- ・想像力の育成
- ・読解力の向上
- ・心の栄養 など

他にもたくさんの効果があると思います。今後も読み聞かせの日を楽しみにしていきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



【奉仕作業ありがとうございました】

奉仕作業1週間前に行われた常任委員会において、「PTA事務局と学校管理職は、4時30分に学校集合です。」

「えっ、なぜ？ そんなに早く。」

と思い「もう少し遅くても。」とお話ししましたが

「校長先生は早く寝てください。」の一言で予定どおり、4時30分に決定し、当日は何とか集合時間に間に合いました。

そして集合した皆さんが、最初に取り組んだ作業は、池の水を水中ポンプで吸い上げ、水を抜く作業でした。さらに池の10匹の鯉を一時的に簡易水槽に移すこと。

機械の設置や用具の移動なども含めると、水抜き作業が終了したのは、5時30分頃だったと思います。

保護者集合は6時ですので、やはり事務局、管理職が4時30分に集合し、水抜き作業が必要なことを実感しました。

奉仕作業の内容は、校舎内トイレ掃除・校舎外草刈り・池などの泥上げ作業でした。

皆さんの協力を頂き、1時間程で終了することができました。

保護者の皆さんが子どもたちのために一生懸命作業して下さる様子に感謝と感銘を受け、手に付いた生臭い鯉のにおいも忘れてしまいました。

早朝より本当にありがとうございました。



【児童の携帯品に係る配慮について】

以前、文部科学省より「児童の携帯品に係る配慮について」という連絡事項が出されました。

内容は、

「児童生徒の携行品の重さや量への配慮について ～中略～ 授業で用いる教科書やその他教材、学用品や体育用品等が過重になることで、身体の健やかな発達に影響が生じかねないこと等の懸念や ～中略～ 教科書やその他教材等のうち、何を児童生徒に持ち帰らせるか、また、何を学校に置くこととするかについて、保護者等とも連携し、児童生徒の発達段階や学習上の必要性、通学上の負担等を考慮して…」というような内容です。

簡潔にすると児童の発達段階を考慮し、健やかな発達に影響がないようにランドセルやナップザックの中身を各学校で検討してほしいという内容です。

先月、集合場所で待っている子どもたちのランドセルを持ってみると、とても重いことに気付きました。このランドセルを背負いながら2・3km歩いていくのかと考えると、本校も検討が必要であると思いました。

そこで、先生方や教育委員会とも相談し、次のようにしていきます。

- ☞ 緊急時や連絡等も含め、**個人のタブレットは毎日持ち帰る。**
- ☞ 宿題等に伴う教科書等については、タブレットに挿入されている教科書を使用し、挿入されていない教科書の場合は、**最低限の範囲で持ち帰る。**
- ☞ 必要のないものや家庭学習する予定のないものは**学校に安全（盗難防止、整理整頓）に置いていく。**として、共通理解をしました。さらに今後共通実践していきます。



ご家庭でもお子さんのランドセル内を確認してくださるようお願いいたします。また、併せて持ち帰っている中身の**理由も聞いてみてください**。何かあれば、各担任や学校にご連絡をお願いいたします。

【なぜだろうと考える児童（思考力）の育成を目指して】

2020年度からの新学習指導要領では「自分で考え、表現・判断し、実際の社会で役立つこと」が求められるようになりました。また、評価する上でも「与えられた内容をいくつ覚えているか。」ではなく、「どのような力を身に付け、それによって何ができたか。」に変わってきました。確かに令和型日本の学校教育はこのように変革しなければ社会の変化に対応できない部分があると思います。

そこで、子どもたちには「なぜだろう。」という考えをたくさんもってほしいと思います。普段の学校生活や家庭生活でもそうですが、先生方に言われたことも含めて。

例えば、これから暑い日は熱中症予防のためにも、半袖、半ズボンで体育等を行います。「運動着の半袖を半ズボンに入れなさい。」と先生方に言われるでしょう。その時、「私たちは入れたけど、先生方はなぜ入れないの？」とだれも言いません。子どもによっては「私たちは入れたのになぜ先生方は入れていないのですか？」と聞いてきてもいいと思います。聞かれたらきちんと説明するのが教員です。場合によっては、子どもたちと相談して決めることもあるでしょう。上記内容は、極端ですが、なぜと考えるそんな子どもを育成したいと思います。子どもたちと先生方との合意形成ですね。